

平成29年度を迎えて

陽春の候、皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

新年度のスタートにあたり、ご挨拶を申し上げます

東日本大震災から6年が経過して、復興後半の創生期間に入りましたが、市町村職員の皆様には復興事業に一層邁進されておりますことに、改めて敬意を表する次第です。

さて、本組合の一般職の退職手当については、平成19年度から昨年度まで続いた大量の定年退職が一服して、今後数年間の定年退職数は、400人台から500人台前半で推移する見通しとなっています。

こうした退職者数の状況変化に対応するため、今後の給付費に要する費用の在り方について、本組合の役員並びに議員の所属する人事主管課長で構成する制度研究会に検討をお願いしました。

具体的には、今後の退職手当額と負担金額を予想するため、今年に入ってから市町村に、向こう10年間の退職予定者数と採用予定者数の状況報告を依頼しました。

現在、その報告に基づき将来予想額を算出し、3月下旬から制度研究会で検討に入りました。今年度の前半には同研究会から一定の方向性を提示していただき、その後市町村に検討をお願いする予定としております。

組合は、今後とも市町村間の給付費精算額のバランスを図りながら、安定した退職手当支給制度の構築に努める所存です。

県内市町村と職員の皆様には、本組合の退職手当制度に特段のご理解を賜りますとともに、皆様が安心して職務に専念できますよう、組合運営に全力を傾注してまいりますので、一層のご指導とご協力をお願い申し上げます。年度初めのご挨拶と致します。

平成29年4月1日

宮城県市町村職員退職手当組合

組合長 佐藤 勇

(宮城県栗原市長)